



広島県内の地域日本語教室に参加している支援者
（ボランティア、日本語教師、コーディネーター
等）を対象とした、日本語学習支援者実態調査

2026 年 4 月

特定非営利活動法人ひろしま NPO センター



目次

はじめに	1
1. 調査概要	2
アンケートの目的と役割	2
調査の対象	2
調査方法	2
2. 調査結果	3
(1) あなた及び参加している地域日本語教室について	3
(2) 活動の目的と意義について	10
(3) 活動の状況とこれからの関わり方について	16
(4) 活動を続けるための課題とサポートについて	19

はじめに

近年、広島県内においては、外国にルーツを持つ人々の増加に伴い、地域社会における日本語学習支援の重要性が一層高まっています。地域日本語教室は、日本語学習の場であると同時に、学習者が地域とつながり、安心して生活していくための大切な居場所としての役割も担っています。その活動は、ボランティア、日本語教師、コーディネーターなど、多様な立場の支援者の方々によって支えられています。

当センターでは、公益財団法人日本国際交流センター（JCIE）の助成を受け、「外国ルーツを持つ若者が自ら進路を選べることを支える官民一体となった仕組み構築事業」に取り組んでいます。本事業の一環として、広島県内の地域日本語教室に関わる支援者の皆さまを対象に、日本語学習支援の実態や課題、今後必要とされる支援のあり方等を把握することを目的としたアンケート調査を実施しました。

本調査では、日々現場で活動されている支援者の皆さまから、活動の内容ややりがい、課題、学習者への思いなど、貴重なご意見・ご経験をお寄せいただきました。本報告書は、これらの回答をもとに、広島県内における地域日本語教室の現状を整理し、今後の活動の活性化や支援体制の充実、さらには社会全体からの理解と応援の拡大につなげることを目的として作成したものです。

ご多忙の中、本アンケートにご協力いただいた支援者の皆さまに、心より感謝申し上げます。本報告書が、地域日本語教室に関わる皆さま同士の学び合いや、今後の取り組みを検討する際の一助となれば幸いです。

1. 調査概要

アンケートの目的と役割

本アンケートは、広島県内の地域日本語教室に関わる支援者（ボランティア、日本語教師、コーディネーター等）の活動実態や課題、支援者として感じているやりがい、今後必要とされる支援や仕組みについて把握することを目的として実施しました。

地域日本語教室は、学習者一人ひとりの状況に寄り添った支援が求められる一方で、その活動は多くの場合、支援者の自主的な努力や工夫に支えられています。本アンケートを通じて、現場で活動する支援者の声を可視化し、広島県内における地域日本語教室の現状を客観的に整理することを目指しました。

本アンケートで得られた結果は、今後の地域日本語教室の活動の充実や、支援者同士の連携強化、関係機関・行政との協働の促進に向けた検討資料として活用するとともに、社会全体からの理解と応援を広げていくための基礎資料として位置づけています。

調査の対象

広島県内の日本語教室 84 教室

※アンケートは1教室につき1部配布。

回収回答数は99件。

調査方法

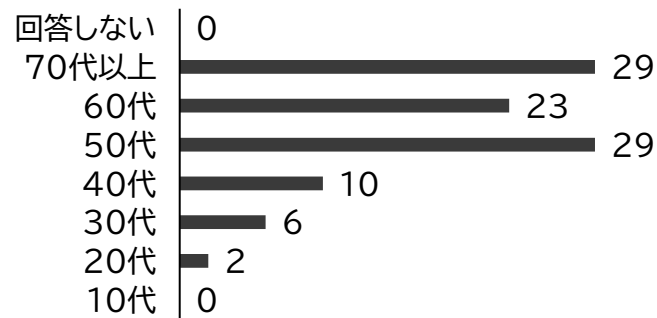
オンライン調査

2. 調査結果

(1) あなた及び参加している地域日本語教室について

① あなたの年代を選択してください。

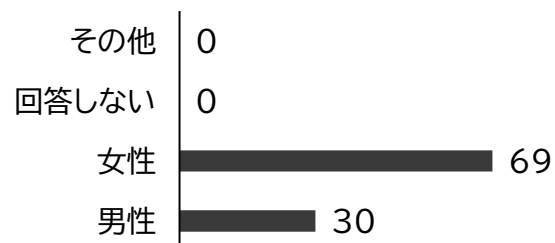
(単一選択、N=99)



年代別については、「50代および70代以上」が最も多く、次いで「60代」が中間的な割合を占めている。一方、「20代・30代・40代」は最も少ないグループとなっている。

② あなたの性別を選択してください。

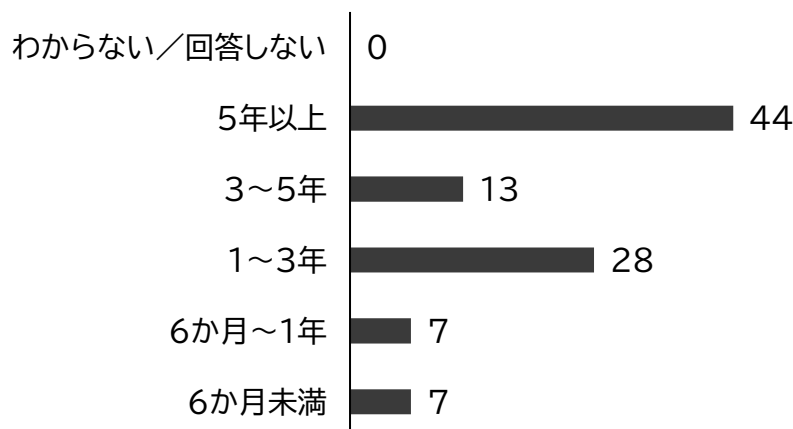
(単一選択、N=99)



性別については、「女性」が69人で最も多く、次いで「男性」が30人となっている。

③ あなたが地域日本語教室に関与してきた通算年数を選択してください。

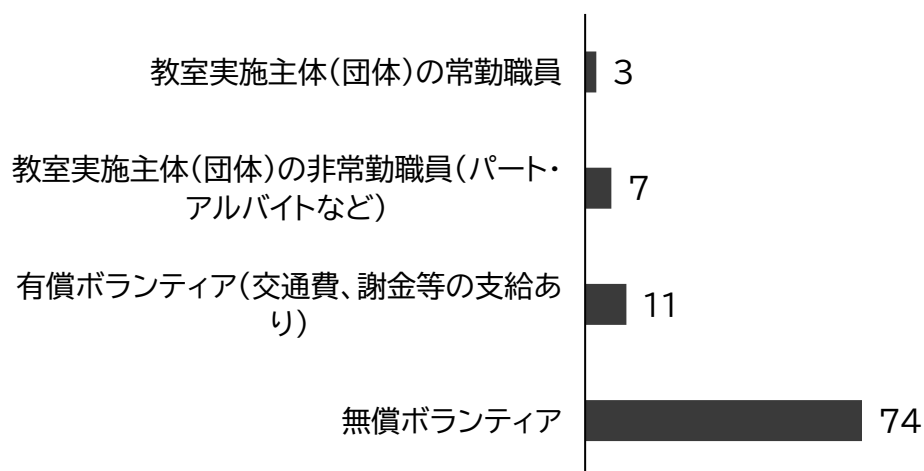
(単一選択、N=99)



地域日本語教室に関与してきた通算年数については、5年以上の回答者が最多であり、1～3年がこれに続き、1年未満は少数であった。

④ あなたと地域日本語教室の関わり方を選択してください。

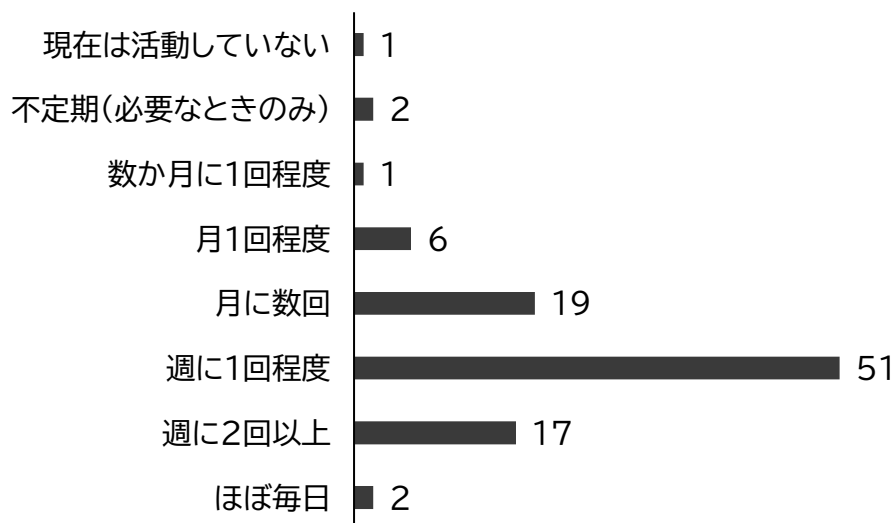
(単一選択、N=99)



※その他 委託(1)、上記の全てを経験(1)、登録支援機関の日本語学習サポート(1)

地域日本語教室との関わり方については、「無償ボランティア」が74人で最も多く、次いで「有償ボランティア」が11人、「教室実施主体(団体)の非常勤職員」が7人となっている。一方、「常勤職員」やその他(委託、上記の全てを経験、登録支援機関の日本語学習サポート)は各1人にとどまっている。

- ⑤ あなたの地域日本語教室への現在の活動頻度で最も近いと思う項目を選択してください。（単一選択、N=99）

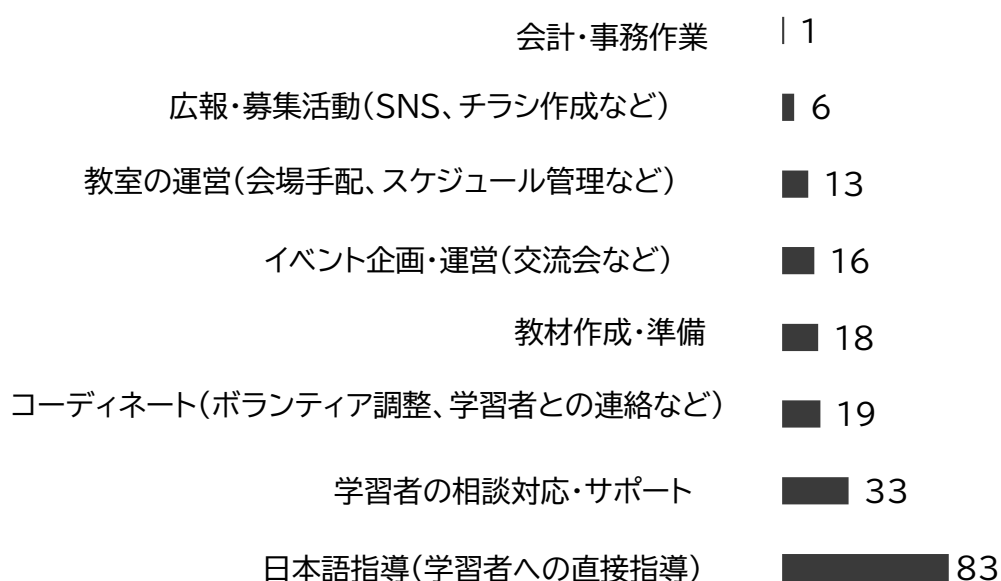


現在の活動頻度については、「週に1回程度」が51人で最も多く、次いで「月に数回」が19人、「週に2回以上」が17人となっている。一方、「月1回程度以下」や「現在は活動していない」は少数にとどまっている。

- ⑥ 上記問いにて『現在は活動していない』と回答された方は、差し支えがなければその理由をご記入ください。（自由記述、N=1）

✓ 他のボランティアをしている

⑦ あなたの現在の地域日本語教室での役割について該当すると感じる項目を選択してください。(主な役割を最大3つ選択、N=99)

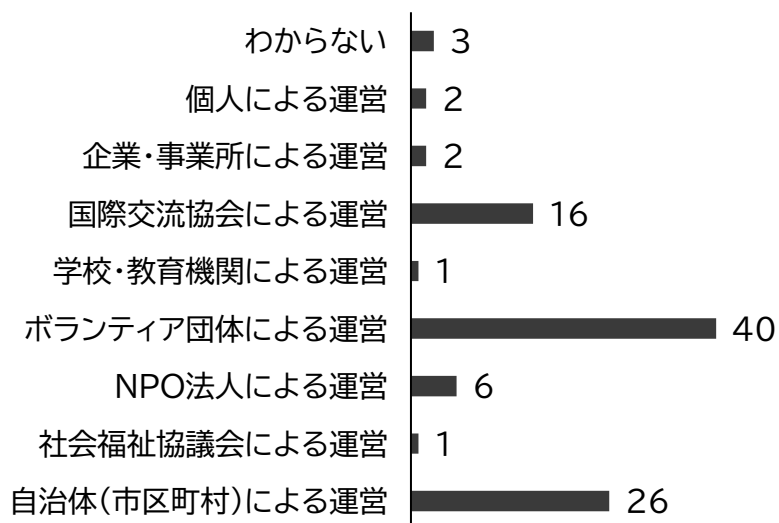


※その他 全て該当+生活上での相談・支援・専門家紹介等(1)、支援者や運営者からの相談対応等(1)、日本語学習のサポート(1)、見習い(1)。

現在の役割については、「日本語指導(学習者への直接指導)」が83人で最も多く、次いで「学習者の相談対応・サポート」が33人、「コーディネート」や「教材作成・準備」が続いている。一方、会計・事務作業やその他の役割は少数にとどまっている。

⑧ あなたが主に関わっている地域日本語教室の運営形態について選択してください。

(単一選択、N=99)

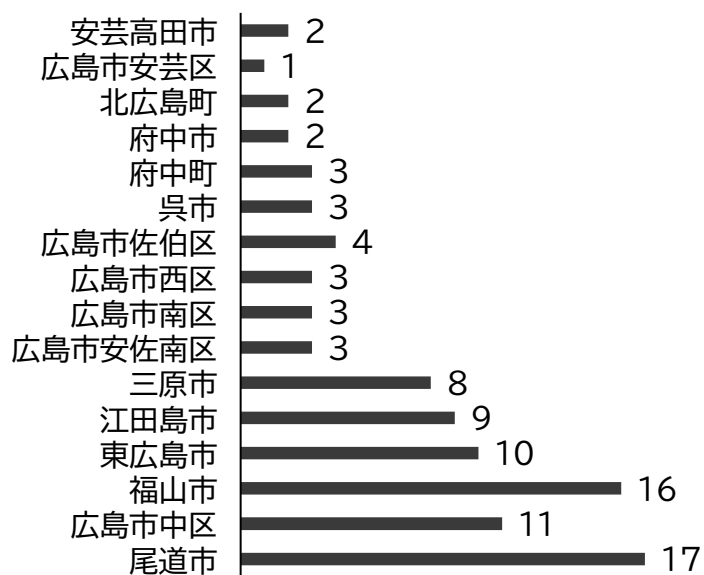


※その他 公益財団法人(1)、自治体と NPO (1)。

地域日本語教室の運営形態では、「ボランティア団体による運営」が最多の 40 件で、次いで「自治体（市区町村）による運営」が 26 件、「国際交流協会」が 16 件となっている。その他は少数にとどまり、「社会福祉協議会による運営」や「学校・教育機関による運営」は各 1 件であった。

⑨ あなたの主な活動エリアを選択してください。

(単一選択、N=99)

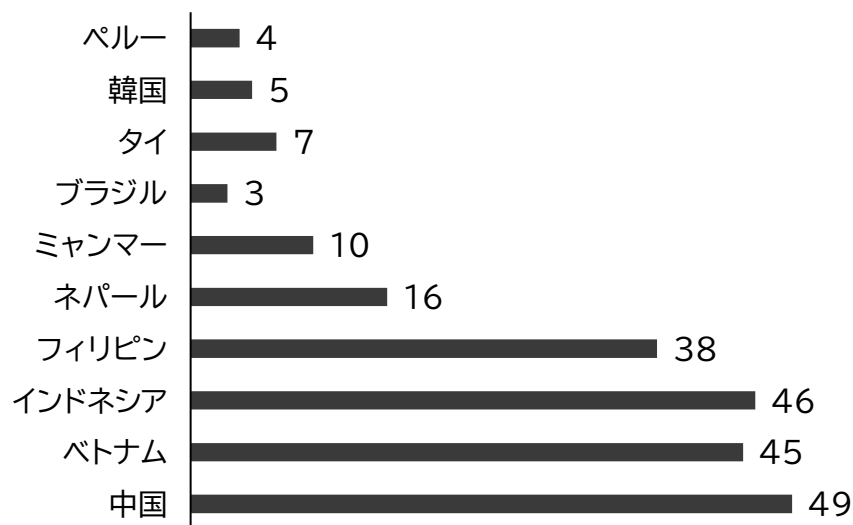


※その他 オンライン教室含めれば広島市内および隣接地域 (1)。

主な活動エリアは、「尾道市」が最多の17件で、次いで「福山市」16件、「広島市中区」11件、「東広島市」10件が多かった。その他の地域はいずれも10件未満にとどまっている。

⑩ あなたが関わっている学習者の国籍を選択してください。

(人数の多い国籍を最大3つ選択、N=99)



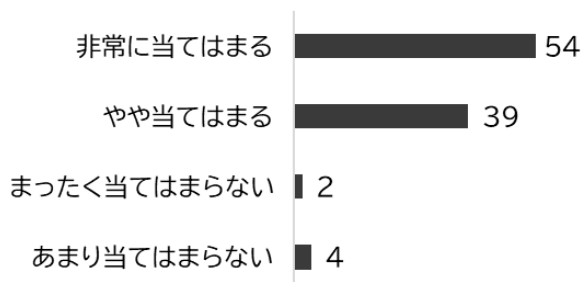
※その他 インド (41)、USA (1)、パキスタン(1)、台湾(1)、ボリビア(1)、
バングラデシュ(2)、ウクライナ(2)、エジプト(2)、カンボジア(3)、イラク
(1)、内モンゴル(1)。

中国 49 件が最多で、次いでインドネシア 46 件、ベトナム 45 件、フィリピン 38 件となっ
ている。その他にもネパール 16 件、ミャンマー10 件、※その他ではインド 41 件など多国籍
に広がっている。

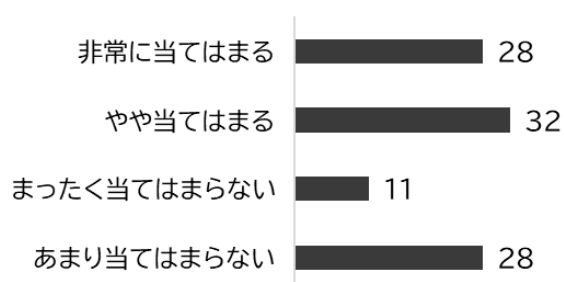
(2) 活動の目的と意義について

- ⑪ あなたが地域日本語教室に関わっている動機について4段階（1. 非常に当てはまる～4. まったく当てはまらない）から選択してください。

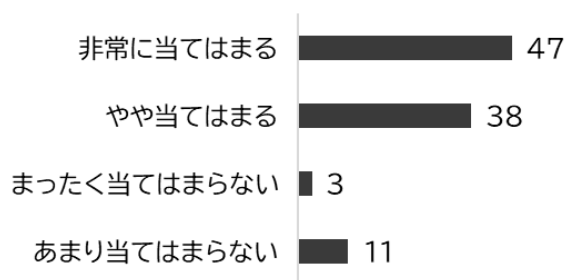
【異文化交流を楽しみたい／国際理解を深めたい】
N=99



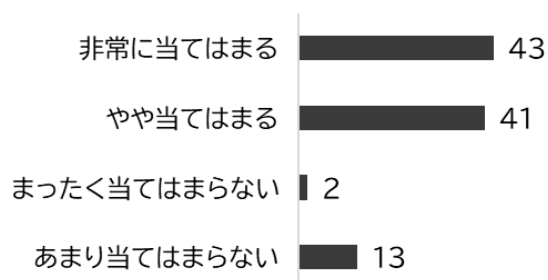
【語学力やスキルを活かしたい／学びたい】
N=99



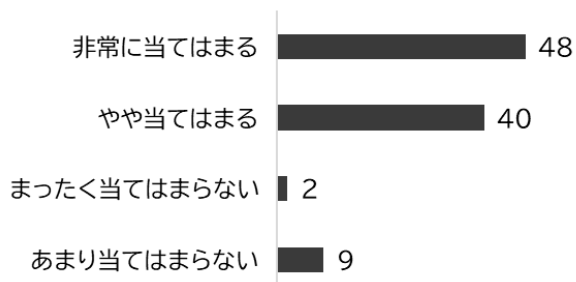
【教えることが好き／成長を支援したい】
N=99



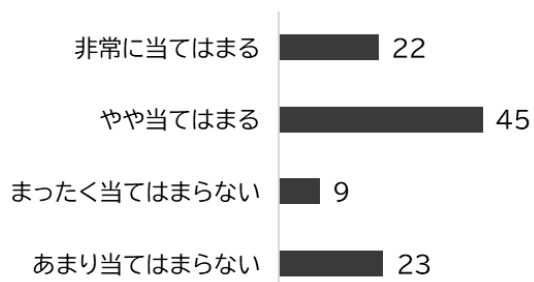
【人とのつながりを広げたい／仲間づくり】
N=99



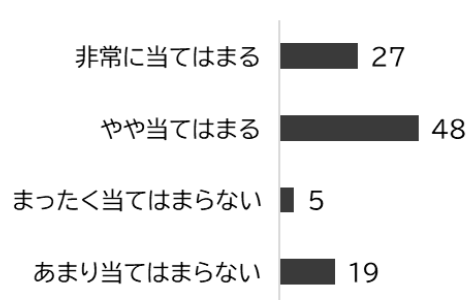
【社会貢献をしたい／地域活性化に関わりたい】
N=99



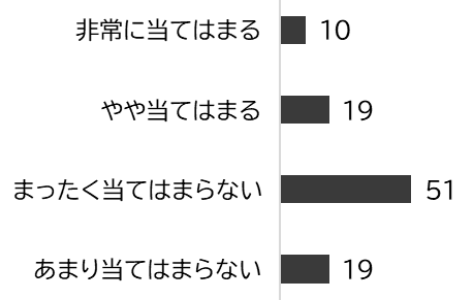
【自分の時間を有効活用したい】
N=99



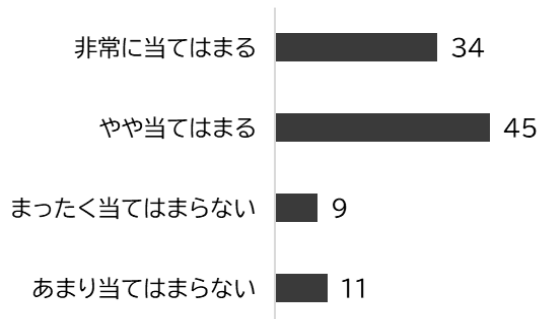
【達成感ややりがいを感じたい】 N=99



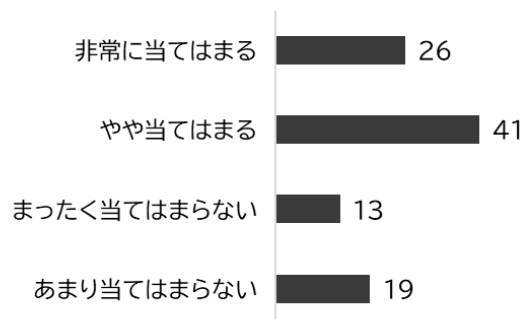
【家族や友人の影響／紹介で始めた】 N=99



【外国人支援に関心がある／ニュースや社会課題をきっかけに】 N=99



【団体(参加している地域日本語教室)の理念に共感】 N=99



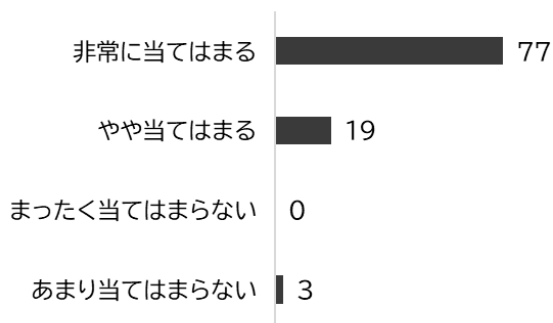
地域日本語教室に関わる動機として最も多かったのは、「異文化交流を楽しみたい・国際理解を深めたい」で、「非常に当てはまる」54件、「やや当てはまる」39件と、合計93件にのぼった。次いで、「社会貢献をしたい・地域活性化に関わりたい」が88件（非常に当てはまる48件・やや当てはまる40件）、「教えることが好き・学習者の成長を支援したい」が85件（非常に当てはまる47件・やや当てはまる38件）、「人とのつながりを広げたい」が84件（非常に当てはまる43件・やや当てはまる41件）と続いている。一方、「家族や友人の影響・紹介で始めた」は肯定的回答が少なく、「まったく当てはまらない」が51件と最多であった。

⑫ 上記『設問⑪』の選択肢以外の動機があれば教えてください。(自由記述、N=12)

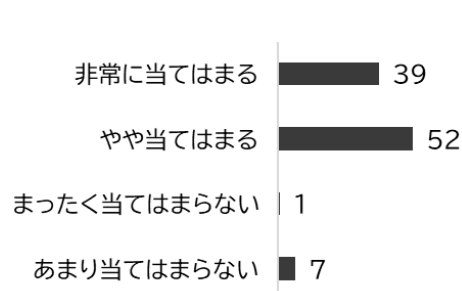
- ✓ 教室が近い
- ✓ 自分がホームステイした時や、旅行先で沢山、外国の方に助けて頂いた事があり、その恩返しをしたい気持ちがあります。
- ✓ AFS のホストファミリーでした。
- ✓ 関連した内容になると思うのですが、新聞の記事で、日本に来られている外国の方が、言葉や文化の違いに悩まれて、不幸な事件や結果になってしまったのを目にして、少しでも力になればと思いました。
- ✓ 国や自治体による多文化共生社会の概念普及が全く進んでいないため。
- ✓ 設立の時に関わりがあり、そのまま継続している。
- ✓ 日本語の勉強で交流になり、異文化でも差別がなく仲良く居られるようにしたい。
- ✓ 日本人の労働力が減っている現状から、外国人の労働力は必須です。
- ✓ 彼らが誇りを持って働ける環境を作りたい。
- ✓ 業務として
- ✓ 外国人が好き。
- ✓ 外国の人に広島を好きになってもらいたい
- ✓ 日本語教室の空白地域だったため、立ち上げたかった

- ⑬ あなたが参加している地域日本語教室は学習者にとってどういった居場所になっていると思うか4段階（1. 非常に当てはまる～4. まったく当てはまらない）から選択してください。

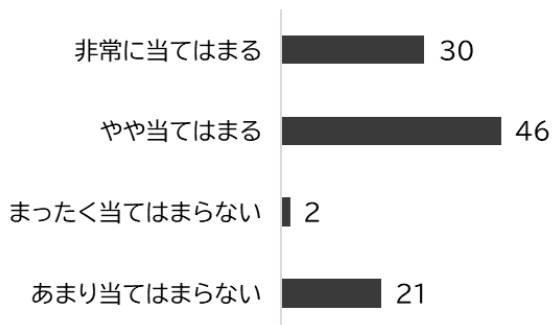
【日本語を学ぶ機会を提供している】
N=99



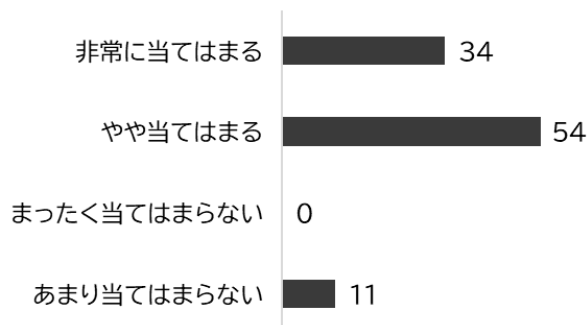
【日常生活に必要な情報や知識を得る場になっている】
N=99



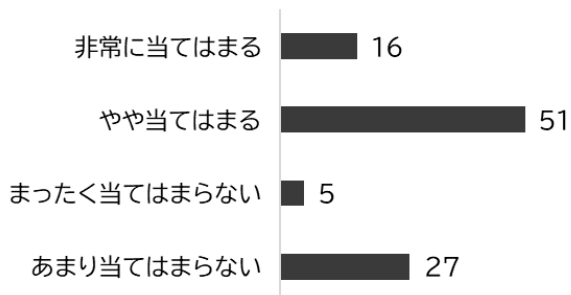
【地域の人との交流・つながりを持てる場になっている】
N=99



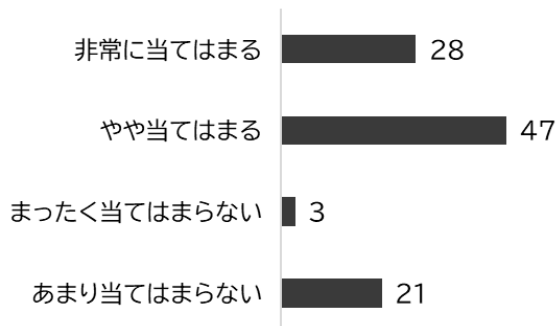
【日本での生活に安心感を与えている】
N=99

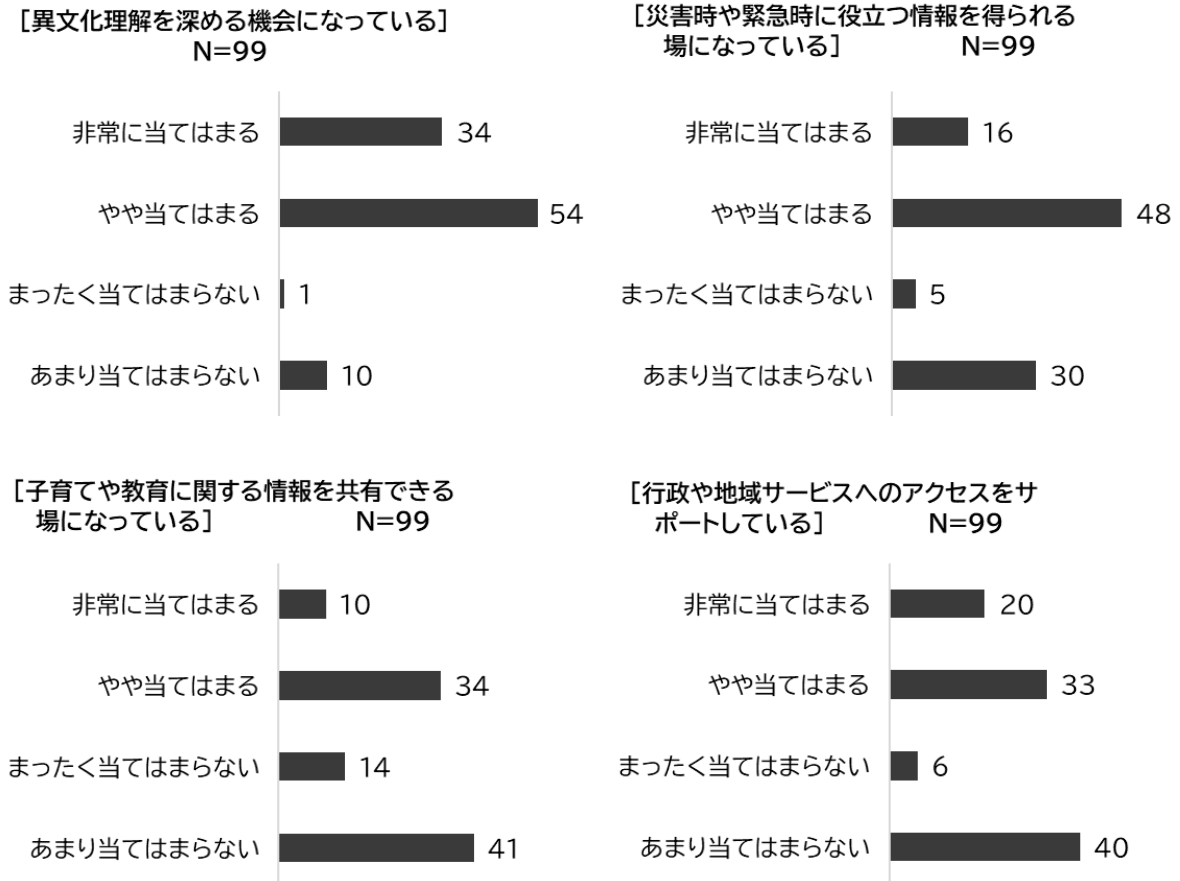


【就労や進学など、将来の選択肢を広げる支援になっている】
N=99



【困りごとや相談に応じてもらえる場になっている】
N=99





地域日本語教室の居場所としての役割について、最も多かったのは「日本語を学ぶ機会を提供している」で、「非常に当てはまる」77件、「やや当てはまる」19件と、肯定的回答は合計96件にのぼった。次いで、「日常生活に必要な情報や知識を得る場になっている」が91件（非常に当てはまる39件・やや当てはまる52件）、「日本での生活に安心感を与えている」および「異文化理解を深める機会になっている」はいずれも88件（非常に当てはまる34件・やや当てはまる54件）と続いている。また、「地域の人との交流・つながりを持てる場」や「学習者同士のネットワークづくり」も、それぞれ76件と比較的高い評価を得ていた。

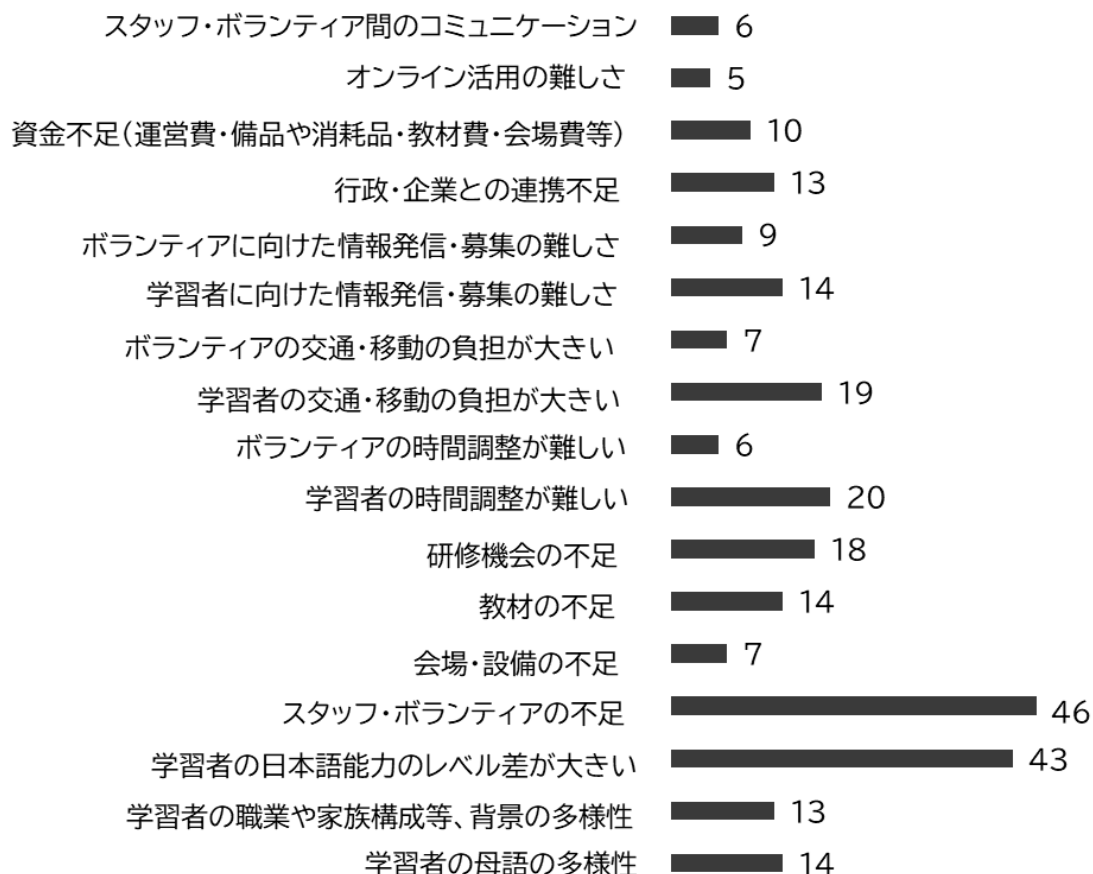
一方、「子育てや教育に関する情報を共有できる場になっている」では肯定的回答が少なく、「あまり当てはまらない」41件が最多であったほか、「行政や地域サービスへのアクセス支援」においても「あまり当てはまらない」が40件と最も多く、支援内容によって居場所としての機能に差がみられる結果となった。

⑭ 上記『設問⑪』の選択肢以外に居場所として機能していると思うことがあれば教えてください。(自由記述、N=6)

- ✓ 特に無し
- ✓ 数少ない休みを利用して、参加する必要性を感じている。
- ✓ 学習者が安心して日本語でコミュニケーションできる
- ✓ クリスマス、花火、季節の行事を企画しています
- ✓ クリスマスパティーしたり、誕生日会もしたり、海も行ったりしました。川原バーベキュー
- ✓ 何気ないおしゃべり

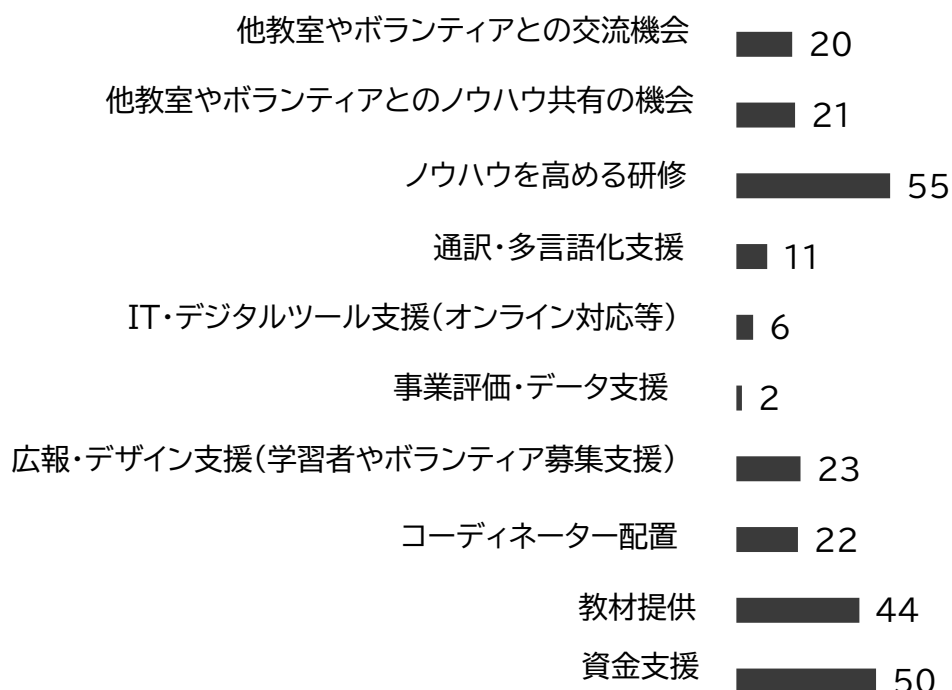
(3) 活動の状況とこれからの関わり方について

⑮ 地域日本語教室に関わっている中で個人として参加に難しさを感じることを最大3つ選択してください。(特に強く感じる課題を最大3つ選択、N=99)



地域日本語教室への参加において最も多く挙げられた難しさは、「スタッフ・ボランティアの不足」(46件)であった。次いで、「学習者の日本語能力のレベル差が大きい」(43件)が多く、指導面での負担が示されている。また、「学習者の時間調整が難しい」(20件)も比較的多かった。一方、「オンライン活用の難しさ」や「スタッフ間のコミュニケーション」は最も少ない回答にとどまった。

⑩ 地域日本語教室に関わり続けるために必要だと思う支援について最大3つ選択してください。(特に必要と思う支援を最大3つ選択、N=99)



※その他 ボランティアを募集しても、英語を使いたいからと来る人が多い。実際はアジア系なので英語は使わない事にガッカリして帰る方が多いので、正しい認識や知識を記載しての募集が必要(1)、日本語教師(専門職)の待遇改善(1)、行政・企業の支援(1)、専門職の地位の確立、自治体や企業の理解や後押し(1)、場所の確約(1)。

地域日本語教室に関わり続けるために必要な支援として最も多かったのは、「ノウハウを高める研修」で55件、次いで「資金支援」が50件、「教材提供」が44件と続いており、活動の質と継続性を支える実践的支援へのニーズが高いことが示された。また、「広報・デザイン支援(学習者やボランティア募集支援)」(23件)や「コーディネーター配置」(22件)、「他教室やボランティアとのノウハウ共有の機会」(21件)も一定数挙げられていた。一方、「事業評価・データ支援」は2件と最も少なく、支援としての優先度は低い結果となった。

⑰ あなたの地域日本語教室への関わり方について、これからはどのようなになっていきたい
と思うか、最も近い考えを選択してください。(単一選択、N=99)

わからない／特に考えていない 11

ボランティアとしてかかわっていききたい 65

資格を取るなどして職業(プロ化)にして
いききたい 14

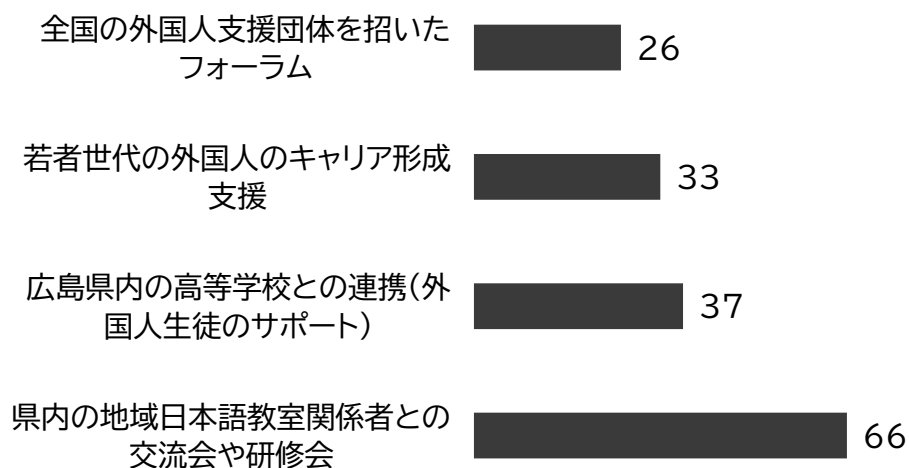
※その他 既存の教室に無い手法や運用で利用できない人に対応したい(1)、専門職として
関わり続けたい(1)、専門的背景を持つコーディネーターとして関われるのが理想かなと思
います(1)、日本語教室のない地域で新たに教室を立ち上げたい(1)、現状のまま(1)、職業
までは考えていないが、長期で続けるなら資格取得も視野に入れたい(1)、考え中(1)、自治
体職員の啓発や、地域の理解促進への専門性の提供(1)、学習者に日本語を教えるだけでな
く、日常的に関わる人の外国人とのかかわり方等などの研修会などでできればいいと思う
(1)。

今後の地域日本語教室への関わり方として最も多かったのは、「ボランティアとしてかかわ
っていききたい」で65件であった。次いで、「資格を取るなどして職業(プロ化)にしてい
きたい」が14件、「わからない／特に考えていない」が11件であった。

また「その他」の回答では、「日本語教室のない地域で新たに教室を立ち上げたい」(1件)
や、「学習者への日本語指導に加え、地域で外国人と関わる人向けの研修を行いたい」(1
件)といった、地域全体への広がり意識した意見が見られた。

(4) 活動を続けるための課題とサポートについて

⑱ ひろしま NP0 センターが取り組んでいる下記事業について参加してみたい、もっと詳しく知りたいと感じる事業があれば選択してください。(複数選択、N=95)



ひろしま NP0 センターが取り組む事業の中で、参加・関心が最も多かったのは、県内の地域日本語教室関係者との交流会や研修会（66 件）であった。次いで、会場・設備の不足への対応（37 件）や、若者世代の外国人のキャリア形成支援（33 件）への関心が多く見られた。また、全国の外国人支援団体を招いたフォーラム（26 件）についても一定の関心が示された。

⑲ ひろしま NP0 センターからの情報提供を希望される方は、お名前と連絡先（メールアドレス）をご回答ください。(自由記述、N=27)

②⑩ 地域日本語教室や外国人支援、ひろしま NP0 センターの活動など、ご意見やご感想がありましたらご記入ください。（自由記述、N=13）

- ✓ 文科省の指針では留学分野（日本語教育機関）と就労分野（主に技能実習や育成就労制度）に関わる日本語教育を有償で認定日本語教育機関および登録日本語教員に教授権限を与えている（与える制度を運用しようとしている）。もうひとつの生活分野が本件に関連するが、ここにも何らかの形で機関や教員が配置なり活用という介入があるだろう。しかしこれは留学も就労もそれぞれの「認定」を文科省から取得した教育機関によるものであり、これを生活分野に適用するには「生活分野の日本語教育機関」が必要になる（またはどこかの教育機関が「生活分野」の認定を取得する）。基本的に留学も就労もいわゆる「学校法人」や「公益法人」など巨大組織が運営（自社所有の校舎ほか資産要件など）認定を受けるが、生活分野については、そういった教育一辺倒の機関ではなく、むしろ支援的団体に所属する講師（支援者）要件を付帯させて認定すべきと考えている。
まだ生活分野については文科省も検討しているのだろうが、方向性がわからない中での独自の想定でいえば、NP0 センターさんのような、また規模の大小ではなくこれまでの活動実績など（最低限法人格は必要でもいい）文科省のみの管轄ではなく厚労省や入管庁など省庁を跨いだ管轄に類する支援組織（団体）が地域日本語教育事業（教室活動）を行えるような別方策がなければ生活者や地域在住者という分野で分けきれない在住外国人への対峙は日本語教育（学習支援）だけでは到底足りない。ひろしま国際センターや平和文化センターが入るのもいいが、それ以外の一定要件の地域活動団体でも（貴所を筆頭に）地域日本語教育の行政連携・支援を受けられる実施運営ができるよう、貴所のような貴重な中間支援組織ならではの行政・民間との繋がりの中で仕組み化に御尽力いただければ幸いです。
- ✓ 特に無し
- ✓ 現在の活動だと他のボランティアさんや学習者と接触する機会がないので、他の方がどんな感じなのか、私のやり方が合っているのか、もっとよい支援があるのではと思っても相談するところがわからない。
- ✓ また、ボランティアの期限が定められていないことから、いつまで続けるべきなのかわからない。
- ✓ 幸い市外の団体にも属しているので、他の団体のあり様によっては、相談もできるが、ほとんどの場合、ボランティアさんの力量1つのように感じる。
- ✓ また、どこに他の団体があるのかも分からないので、広島県全体の日本語が学習できる場所や団体についてのプラットフォームを教えてください
- ✓ 日本語指導の講習会や、交流会、ボランティアの機会があれば、知らせて下さい。
- ✓ あまり、ひろしま NP0 センター様の活動を勉強不足で知らないの、この機会に外国の方の援助になるような情報や知識を得るように関心を持って、勉強し尽力出来ればと思います。
- ✓ 技能実習生の受け入れ団体や会社は日本語教育や日本文化の体験など多文化共生の視点に立つ取り組みに責任を持つべきだ。来日3年になるが日本の正月について知らない。お雑煮ぐらいは食べる経験をしてほしい。
技能実習生に限らず同様のことがいえる。来日13年になるが日本語初級コースだ。
「工作中は集中してしゃべることはない、休憩時間もいっほにいるのはほとんど外国人。日本語を話さない。」単に労働力として見ているのではないか。日本語教室での学習は個人任せで会社として配慮や支援がないばあいが多い。せっかく学習が定着しても仕事のシフトの変更で来れなくなる生徒もいた。
就学児も一緒に学習しているが、生徒児童の日本語教育も必要だが、不十分のまま支援委員などの制度がなくなる。保護者にとっては、学校への提出書類も送られてくるだけ

で、学校からのホローがないため日本語教室で書類を作成する。漢語交じりの指示文は日常会話が出来る保護者でも理解しがたい。まして、最近は翻訳ソフトがあるといえどもメールでの連絡は理解できにくい。できれば家庭訪問、少なくとも電話で確認ぐらいはしてほしい。

日本での生活が長くても家庭では母語での生活が多く、日本語による学習が難しいだけでなく基礎的理解や体験が不十分であり学力保証も日本語教室の仕事の一部となって居る。

- ✓ 新たに日本語教室を開きたい場合、どのようにすればいいのかを教えていただきたいです。
- ✓ 私の関わる日本語教室では、近隣に外国人労働者が居る地域であるにも関わらず、参加が少なく0人の事も有る。生徒獲得に苦戦している。参加者の多くはJLPT取得を目指す者、又は来日間もない生徒であれば会話の機会を求めて来られるが継続して参加するモチベーションが難しく見受けられる。
- ✓ ひろしま NP0 センターさんの支援により、ほそぼそと活動している日本語教室にとっても大きな力になり、大変有難いです。これからも、ひろしま NP0 センターさんの後押で元気な教室を創りたいと思います。
- ✓ 今後とも、よろしくお願いいたします。
- ✓ 日本語教室の活動の実態、外国人との交流のありかた等地域の人達の理解を深める活動を広めて頂けることを願っております。
- ✓ これから更に広島に住む外国ルーツの方が増える可能性があります。その多くの対応をボランティアに依存するのではなく、県や市町は予算を増やし、小中学校に専門の教員を配置するなど、踏み込んだ施策を講じていただきたいです。
- ✓ このアンケートが外国人むけになっていない。日本語教室は日本人だけが運営しているわけだではないので配慮してほしいです。
- ✓ 行政・企業との連携不足
- ✓ 資金不足（運営費・備品や消耗品・教材費・会場費等）
- ✓ オンライン活用の難しさ
- ✓ スタッフ・ボランティア間のコミュニケーション